

令和4年度 指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	社会教育課
評価対象期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日
施設種別	文教施設

1. 指定概要

施設概要	名称	大分市関崎海星館						
	所在地	大分市大字佐賀関4057番地の419						
	設置目的	海洋及び天文に関する学習の場を提供することにより市民の知識及び教養の向上を図るとともに、豊かな自然環境の下での余暇の活用に資すること。						
指定管理者	施設の建築年 (又は事業開始年)	平成7年						
	名称	大分エージェンシー㈱						
	代表者名	代表取締役 高倉 康弘						
指定管理業務の内容	所在地	大分市法勝台1丁目1番13号						
	内容	①管理施設の利用に関する業務 ②管理施設の利用に係る料金の徴収に関する業務 ③管理施設等の維持管理に関する業務 ④管理施設の利用促進及び生涯学習の振興を図る業務 ⑤管理施設等の経営管理に関する業務						
	料金体系	入館料：無料 観覧料：(個人)中学生以下/無料、高校生/210円、大人/420円 (団体)中学生以下/無料、高校生/170円、大人/330円 ※10人以上から団体割引の対象 (年間/スポーツ)高校生/330円、大人/1,260円 ※観覧有効期間は入会から1年間 その他：(双眼鏡使用料)1回/100円(2分間)						
利用料金制	導入済	選定方法			公募			
指定期間	平成 29年 4月 1日～令和 4年 3月 31日 (5年間)			導入年度	平成 23 年度			
利用者数 (単位：人)		R3年度 目標④		27,500		達成率 ①/④	107%	
22年度② (直営又は 制度導入1年目)	29年度	30年度	R1年度	R2年度③	R3年度①	22年度比 ①-②	R2年度比 ①-③	
14,669	25,172	30,389	29,972	24,192	29,391	14,722	5,199	
管理運営経費の削減額 (直営比較時) (単位：千円)								
直営時 管理運営経費 (b)	前指定期間 最終年度28年(c)	30年度	R1年度	R2年度	R3年度(a)	直営時(初年度)比較 (a)-(b)	前指定期間比較 (a)-(c)	
27,760	27,000	27,500	27,750	28,540	28,010	250	1,010	
利用者満足度 (%)	満足		やや満足		配置職員数 (人)	直営時又は導入1年目		令和3年度
	59		37			7		6

2. 評価結果

評価項目及び評価のポイント								
1 施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組								
(1) 施設の設置目的の達成								
①施設の特徴を生かし、施設の効用を高めるための取組がなされているか。								
②施設の設置目的に応じた効果的な広報など情報発信がなされているか。								
③施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組がなされ、その効果があったか。								
【実績】 ○常設展示「豊の海を知る」や毎月行っている天体観測会等を通じて、海洋及び天文に関する学習の場を提供することにより、市民の知識及び教養の向上を図った。 ○アサギマダラの飛来を促す工夫をはじめ、植栽も四季折々に楽しめるよう管理しており、ロケーションの特性を生かした取組を行うことにより、利用者数の増加を図った。 ○SNS(フェイスブックやインスタグラム)等を利用し、旬な話題を提供するとともに、現に検索されている項目を調査することにより、市民ニーズの把握に努めた。 ○入館料を引き続き無料にしたことや、アサギマダラの飛来を促す工夫、出張教室等の館外活動、積極的な広報活動など利用者数の増加に向けた取り組みを行った結果として、コロナ禍であるものの、令和2年度の24,192人から令和3年度の29,391人に利用者数を伸ばし、コロナ禍以前の平成30年度30,389人とほぼ同水準の利用者数となった。								
(2) 利用者の満足度								
①利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。								
②サービスの質や量は向上しているか。								
③利用者の苦情や要望、意見を把握し、その対応を行っているか。								
④利用者への情報提供が十分にされたか。								
【実績】 ○利用者アンケートは入館無料スペースに設置し、いつでも誰でも記入できるようにした。また、アンケート記入者には、天体写真等のインセンティブをプレゼントすることで、サンプル数の確保に努めた。 ○利用者アンケートにおいて、職員の説明がとて面白かったという声が多く、令和3年度は約96%の方からとても満足、満足との回答を得られた。 ○子ども向けの工作教室や星空案内に係る資格認定講座を開催するなど各利用者のニーズに合わせたサービスを提供した。 ○キャッシュレス決済の取扱い先を追加したほか、広報活動として新たにTwitterを開始するなどサービスの向上に努めた。 ○アンケートやお客様の声を参考に、展示の内容を変更するなど、臨機応変に対応を行った。 ○職員が「ちょっと一言 声かけ運動」を行うことで、海洋や地質をはじめとした様々な情報の提供に努めた。								
2 効率性の向上等に関する取組								
(1) 経費の低減等								
①施設の管理運営において経費の縮減が図られているか。								
②清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。								
③経費の効果的・効率的な執行がなされたか。								
【実績】 ○ビル管理の専門的知識や経験を活かし、点検、修繕等の施設維持管理業務において経費の縮減に努めた。 ○天体観測設備保守点検において、福岡の業者から地元のNPO法人大分宇宙科学協会に委託先を変更するなど、費用を抑える工夫を行った。 ○施設照明やエアコンのこまめな電源調整による節電対応や、館内の天井灯を消費電力の少ないLED電球に交換するなど、光熱水費の節約等、経費の削減に努めた。								
(2) 収入の増加								
①収入を増加させるための具体的な取組がなされ、その効果があったか。								
【実績】 ○観覧料収入について、出張教室やマスコミ各社との情報交換等、これまでと同様に増加に向けた取り組みを行ったものの、繁忙期の8月において台風接近や長雨等による天候不順が多く見られたことなどから令和2年度の1,167,500円に比べ令和3年度は862,920円と減少した結果となった。 ○天文に興味を持ってもらい、観覧者数の増加につなげられるよう小中学生等を対象としたワークショップを開催した。								

3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組	
(1) 施設の管理運営の実施状況	
①事業計画等に基づく適切な人員配置や勤務体制となっているか。	
②従事者への教育・研修は、適切に行われているか。	
③地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。	
【実績】 ○事業計画通りの人員配置、勤務体制であった。イベント等の繁忙期には、本社社員の協力体制も確立していた。 ○災害・事故マニュアル研修や接遇研修、人権・同和問題研修、防災訓練など、年間を通じ、適宜研修等を行った。 ○地元からパート職員を雇用するなど、地域の活性化に努めた。 ○海上保安部とのイベントの共催、地元企業や商工会との意見交換等を通じて地域や関係団体との連携、協働を図った。	
(2) 法令遵守、平等利用、安全対策、危機管理体制など	
①関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)の遵守等に遺漏はないか。	
②施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。	
③市民の公平かつ平等な利用が確保されているか。	
④施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。	
⑤管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。	
⑥事故発生時や非常災害時において適切な対応が取れる体制を確保しているか。	
【実績】 ○事故発生につながる危険な行為を早期発見するため、1日3回以上の施設内循環を行った。また、労働関係法令の遵守に努めた。 ○日常点検マニュアル等を作成し、定期的な研修を通して、緊急時に適切な対応が取れるよう措置を講じた。 ○指定管理経費について黒字を維持しており、適正な財務体制であった。 ○施設の内観、外観の見回りを毎日行い、不具合を発見した際は迅速な修繕対応を行った。 ○ビル管理の専門的知識や経験を活かし、管理物件の修繕、点検等適切に行った。 ○安全管理マニュアルを整備しており、適宜行う防災訓練等を通じて体制の確保に努めた。	

【総合評価】

【所見】 子ども向けの工作教室や星空案内に係る資格認定講座を開催するなど各利用者のニーズに合わせた事業の実施、美しい景色を生かした植栽管理、アサギマダラの飛来を促す環境作り等、教育面、観光面の両視点で集客力向上のための工夫を凝らしており、利用者アンケートによる満足度も高い。積極的な広報活動等を継続した結果として、コロナ禍以前の平成30年度とほぼ同水準の入館者数となった。これらのことから指定管理業務について高い水準で行われているものと判断する。
【今後の対応】 次期指定管理期間においても、SNSを活用した広報活動や出張教室等の入館者数増加に向けた取り組みを継続し、また、新たに導入するプラネタリウムやリニューアルする天体望遠鏡、展示設備を最大限活かせるよう、指定管理者選定の際の募集要項、選定基準等について検討する。 また、利用者アンケートでも改善の要望が多いアクセス道路については、改善に向けて今後とも引き続き大分県へ要望を行う。

【前年度の「大分市行政評価・行政改革推進委員会」における指定管理者制度導入施設に対する主な意見等】

主な意見等	市の対応状況
・出張教室の実施については、今後も多くの需要が見込まれると共に、施設のPRにもつながるため、事業を積極的に推進していくことが望ましい。県外への出張教室に関しても、一定の集客効果が得られていることから、本来業務に差し障りの生じない範囲で効果的な事業実施をしていただきたい。	・令和3年度は前年度に引き続きコロナ禍での実施ということもあり、県外含む全体で26回の開催、参加者数は1,143人とコロナ禍以前に比べ実施規模は小さいものの、本来業務に差し障りのない範囲で実施を継続した。
・映像コンテンツの配信や、インスタグラムによる広報を強化するなど、より積極的な広報活動に努めていただきたいと考える。	・インスタグラムや令和3年度に開始したTwitter等、SNSを活用した広報の中で、写真や動画を頻繁に投稿する等、積極的な広報活動に努めた。
・職員の手作り展示制作物については、その自由度や出来栄について評価できる反面、使用書体の差異や統一感について課題があるため、レイアウト等検討してはどうか。	・令和5年夏頃のリニューアルオープンに向けて展示設備の整備について業務委託契約を締結し、職員の手作り展示制作物と業者が制作する展示物で統一感のあるものとするためレイアウト等の検討を行った。
・当該施設については、地域の方々とも連携して周辺の環境整備に取り組むとともに、今後は、大分空港の宇宙港と関連した取組を進めることにより、観光施設としての魅力もより増してくると思われる。これらを踏まえ、今後の周辺環境も含めた施設等の整備や魅力アップの取組について検討いただきたい。	・大分空港が宇宙港となることについて、出張教室の際にスライドでの紹介やパンフレットの配布等を行った。また、開塔灯台の開設120周年記念イベントの際に共同でスタンパリーの行うなど周辺施設との取り組みを行った。また、施設のリニューアルに合わせ遊歩道の整備を行えるよう令和3年度に詳細設計を行った。

【R4年度 指定管理者評価部会の意見】

①出張講座に参加した児童生徒がその後来館したかを把握するため、出張講座の参加者に記念品引換券等を配付するなどの取組により入館者の内訳の把握に努めていただきたい。
②リニューアルオープン後には、宇宙産業についての教育という観点から、大分市が積極的に関わりながら、大分県との連携も視野に入れて、当施設を活用した魅力的な事業を展開していただきたい。